

第 101 回 ロシアの発展①

1 ロシアの発展

- ・ 13～15 世紀にかけてロシア人は、モンゴル人の（ ）の支配下にあった。
→ロシア人が建国した（ ）は、その属国であった。
→1380 年、キプチャク=ハン国を破ってほぼ自立した。



イヴァン3世
モスクワ大公国の領土を拡大させた。「ツァーリ」は「カエサル」に由来する。

☆モスクワ大公国（1325 年ころ～16 世紀）

都…（ ） ※現在は（ ）の首都

◆（ ）（在位 1462～1505 年）

- ・ 1480 年、キプチャク=ハン国から完全に独立し、モンゴルの支配から脱した。
- ・ 滅亡したビザンツ帝国の皇女ソフィアと結婚していたことから、ロシア語で「皇帝」を意味する（ ）を自称し始めた。
- ・ 正教会の中心はロシア正教会となり、モスクワは「第3のローマ」と呼ばれた。



イヴァン4世
ツァーリによる専制体制を、ツァーリズムという。

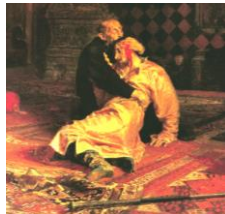
◆（ ）（イヴァン雷帝）（在位 1533～1584 年）

- ・ ツァーリの称号を正式に使用し、貴族をおさえて中央集権体制を確立した。
- ・ ヴォルガ川流域のカザン=ハン国やアストラハン=ハン国を征服した。
- ・ （ ）の首長（ ）に、シベリア遠征を行わせた。
- ・ しかし晩年には恐怖政治を行うようになり、国力は疲弊していった。
→イヴァン4世の死後、モスクワ大公国は内乱状態となり消滅した。



映画『イワン雷帝』

ソ連の名匠エイゼンシュテインが監督した。イヴァン4世を1部では英雄、2部では孤独な独裁者として描いた。モデルはスターリンらしい。



レーピン作「イヴァン雷帝と皇子イヴァン」

イヴァン4世は、いさかいから息子イヴァンを殴り殺してしまった。正氣に戻ったイヴァン4世が、茫然とした表情で息子を抱きしめている。



聖ヴァーシリー聖堂

モスクワの赤の広場に立つ聖堂。イヴァン4世が建立した。現在はレーニン廟がとりに立っている。

2 ロシア帝国の成立

- ・ モスクワ大公国の崩壊後、ロシアでは内乱が続き混乱状態となった。
→1613 年、大貴族の（ ）がツァーリ（皇帝）に選ばれた。



ミハイル=ロマノフ
300 年続くロマノフ朝の創始者ではある。

☆（ ）（1613～1917 年）

都…モスクワ→ペテルブルク

◆ミハイル=ロマノフ（在位 1613～1645 年）

- ・ 内乱をおさめ、ロマノフ朝を創設した。
- ・ 1670 年、コサックや農民が、（ ）を起こした。

